佳作

じてんしゃにのれたよ

福島県　中島村立滑津小学校二年　佐々木　純

わたしは、ほじょりんなしのじてんしゃにのれませんでした。

おねえちゃんとふたごのいもうとがのってるときずっとのれなくてくやしくて、れんしゅうしてもできませんでした。

ある日、おじいちゃんと、おばあちゃんがとまりにきてくれました。おじいちゃんに、じてんしゃにのれないことをつたえると、

「いっしょにれんしゅうしよう。」

といってくれました。その日からあそびにきた日は、おじいちゃんにおしえてもらいました。「下をむかずに前をむいてこいでごらん」「こわがらないでおもいっきりこいでごらん」「じしんをもっていとなら、できる」とはげましながら、おじいちゃんはアドバイスをしてくれました。まい日れんしゅうをして、たくさんころんでちもでたけど、がんばってれんしゅうしました。「のれるまでがんばろう」と思いました。おじいちゃんおばあちゃんがいなくても、ひとりでなんどもなんどもれんしゅうしました。

すると十二月の日、とおくをみておもいっきってこいでみると、のれるようになりました。のれるようになってうれしかったです。おじいちゃんにおしえてもらってよかったです。

じてんしゃにのれるようになったのは、おじいちゃんがていねいにやさしくおしえてくれたおかげです。

おじいちゃんにつたえると、

「よくがんばったな。」

といってくれました。そのことばがまたこころにのこっています。

それからすぐおじいちゃんはてんごくに行ってしまいました。かなしくてさみしかったけどおじいちゃんとれんしゅうした日をぜったいにわすれません。

じてんしゃのれんしゅうをとおして、いっしょうけんめいれんしゅうすれば、できるようになることがわかりました。これからさきもむずかしいなとおもうときもあるけど、がんばれるきがします。